

1 単元名 器械運動「跳び箱運動」

2 目標

- (1) 跳び箱運動の行い方について理解するとともに、切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすることができるようにする。【知識及び技能】
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 跳び箱運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①跳び箱運動の行い方について、言ったり書いたりしている。 ②自己の能力に適した切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすることができる。	①自己の能力に適した課題を見付けている。 ②課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりしている。 ③課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	①跳び箱運動に積極的に取り組もうとしている。 ②学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合おうとしている。 ③器械・器具の準備や片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 ④仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑤互いの服装や髪型、場や器械・器具の安全に気を配っている。

4 運動の特性

ア 一般的特性

- ・技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びに触れたり、味わったりすることができる運動である。
- ・より困難な条件の下でできるようになったり、より雄大で美しい動きができるようになったりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

イ 児童から見た特性

- ・新しい技に挑戦してできるようになったり、できるようになった技をさらに高めたりすることができる運動である。
- ・跳び箱から落ちたり、着地を失敗したりする恐怖心を抱きやすい運動である。

5 児童の実態

知識及び技能に関して	思考力、判断力、表現力等に関して	学びに向かう力、人間性等に関して
<p>(行い方の知識はあるか)</p> <p>これまでに開脚跳びや台上前転などの運動に取り組んでおり、技の行い方について理解している。</p> <p>(技能の状況はどうか)</p> <p>開脚跳びができると回答した児童は9割いた。台上前転は5割ができると回答し、かかえ込み跳びは3割ができると回答した。伸膝台上前転や首はね跳び、頭はね跳びができると回答した児童は1割未満だった。</p>	<p>(課題を見付けられるか)</p> <p>めあてをもって取り組んでいると回答した児童が6割、どちらかと言えば取り組んでいると回答した児童が4割いた。</p> <p>(解決はできるのか)</p> <p>めあてを達成するために「自分のレベルに合った場で練習すること」が大切だと回答した児童が7割いた。次に多かった回答は「繰り返し練習する」で5割いた。</p> <p>(考えを伝えられているか)</p> <p>「体育の学習の中で友達に教えたことはありますか」という質問に対して「ある」と回答した児童は9割いた。</p>	<p>(進んで取り組んでいるか)</p> <p>跳び箱運動が「楽しい」と回答した児童は、6割程度だった。「楽しくない」(3名)「あまり楽しくない」(7名)と回答した児童は合わせて4割程度だった。</p> <p>(友達と仲良く取り組んでいるか)</p> <p>跳び箱運動をしていて楽しいと思うのは、「友達と一緒に運動しているとき」と回答した児童が4割程度だった。</p> <p>(安全に気を付けているか)</p> <p>大半の児童が服装や身だしなみを意識して気を付けている。また、9月に行ったマット運動では、約束を守り、安全に準備をすることができていた。</p>

6 指導の手だて

(1) 課題を見付けられるようにするための指導の工夫

① 自分の課題を見付けるための場の工夫

第1時から技を行いやすい場やポイントを意識するための用具を準備する。そうすることで、児童がこれまでに学習した経験をもとに、自分の能力に適した場を選ぶことができるようにする。自分の能力に適した場を選んで、技に挑戦することを通して児童は自分の能力の段階に適した具体的な課題をもつことができると考えた。

(2) すすんで課題を解決できるようにするための工夫

① 課題解決のための方法の選択

課題を解決するための方法を選べるようにする。動きのポイントや練習方法、次の課題が示されている「ポイントカード」や自分の動きを動画で撮って確認したり、見本動画を見たりすることができる「ICT 機器」、一人一人の課題に応じた「様々な場」を準備する。児童がこれらの方法を選べるようにすることで、課題解決のための方法や活動を工夫することができると考えた。

② 協働的に解決するための言葉掛け

解決の見通しをもてていない児童には、同じ課題に取り組んでいる児童と一緒に取り組むことや、すでにその課題を解決している児童に助言を求めることなどを提案する。また、友達と関わりながら課題を解決している児童を称讃し、協働的に学んでいることを価値付け、よさを広めていく。

7 指導と評価の計画

学習過程		課題を見付ける・課題を解決する			課題を見付ける・課題を解決する		
時間		1 本時	2	3	4	5	6
学習内容及び活動		1 学習の流れを確認する 2 準備運動をする 3 場や器具の準備をする 4 主運動につながる運動をする					
		5 切り返し系の技に 取り組む 6 課題の見付け方を 共有する 7 切り返し系の技に 取り組む 8 場や器具の片付け をする 9 整理運動をする 10 振り返りをする	5 課題別練習①を行う 6 振り返りをする ・課題解決の仕方や技のポイントを共有する。 7 課題別練習②を行う 8 場や器具の片付けをする 9 整理運動をする 10 振り返りをする	5 回転系の技に取り 組む 6 課題の見つけ方を 共有する 7 回転系の技に取り 組む 8 場や器具の片付け をする 9 整理運動をする 10 振り返りをする	5 課題別練習①を行う 6 振り返りをする ・課題解決の仕方や技のポイントを共有する。 7 課題別練習②を行う 8 場や器具の片付けをする 9 整理運動をする 10 振り返りをする		
評価の重点	知・技		①				②
	思・判・表	①	②			③	
	主体的	⑤		②	③	④	①

8 本時の展開(1/6)

(1) 目標

- ・自己の能力に適した課題を見付けることができるようにする。
- ・互いの服装や髪型、場や器械・器具の安全に気を配ることができるようにする。

(2) 展開

学習活動	□個別最適な学びへの支援 ○評価(評価方法)
<p>1. 学習の流れを確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年生までに経験した技や学び方を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習の流れを知り、自分の課題を見付けよう</p> </div> <p>2. 準備運動をする</p> <p>3. 場や器具の準備をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用具の安全の運び方など、安全についてのきまりを確認する。 <p>4. 主運動につながる運動をする</p> <p>5. 繰り返し系の技に取り組む</p> <p>6. 課題の見付け方を共有する</p> <p>7. 繰り返し系の技に取り組む</p> <p>8. 場や器具の片付けをする</p> <p>9. 整理運動をする</p> <p>10. 振り返りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2時以降に取り組みたい技を確認する。 	<p>□積極的に自分の役割を果たそうとしている児童を称賛する。</p> <p>○互いの服装や髪型、場や器械・器具の安全に気を配っている。(観察)</p> <p>□よい動きをしている児童を称賛し、よい動きを全体に広める。</p> <p>□技を行いやすい場や技のポイントを意識するために用具から児童が選べるようにすることで、児童が自分の能力に適した具体的な課題をもてるようにする。</p> <p>□積極的に運動をしようとする児童や友達と関わりながら運動している児童を称賛し、友達と協力して運動することを促す。</p> <p>□「どのように課題をもつことができたのか。」と発問することで、まだ課題をもていない児童が課題の見付け方を参考にできるようにする。</p> <p>□「やってみてどうだったか。」や「どのようなことをしようとしているのか。」と発問することで、児童が自分の課題をもてるようにする。</p> <p>□「次回はどんな練習をしたらよいか。」と発問することで、課題解決の見通しをもてるようにする。</p> <p>○自己の能力に適した課題を見付けている。 (観察・学習カード)</p>